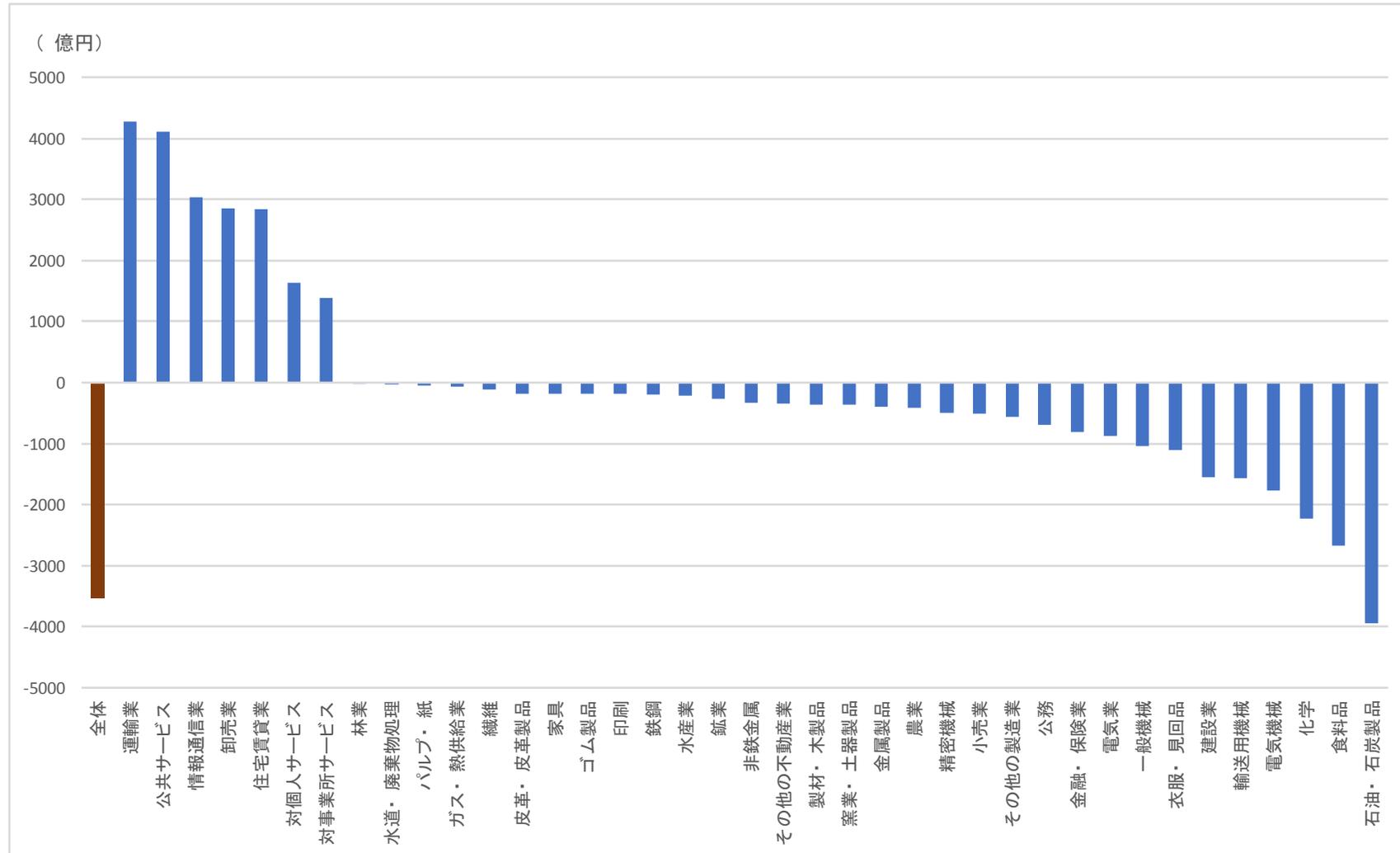


(仮称)さっぽろ連携中枢都市圏
圏域の中長期的な将来像と、
その実現に向けた主な取組
参考資料

札幌市まちづくり政策局

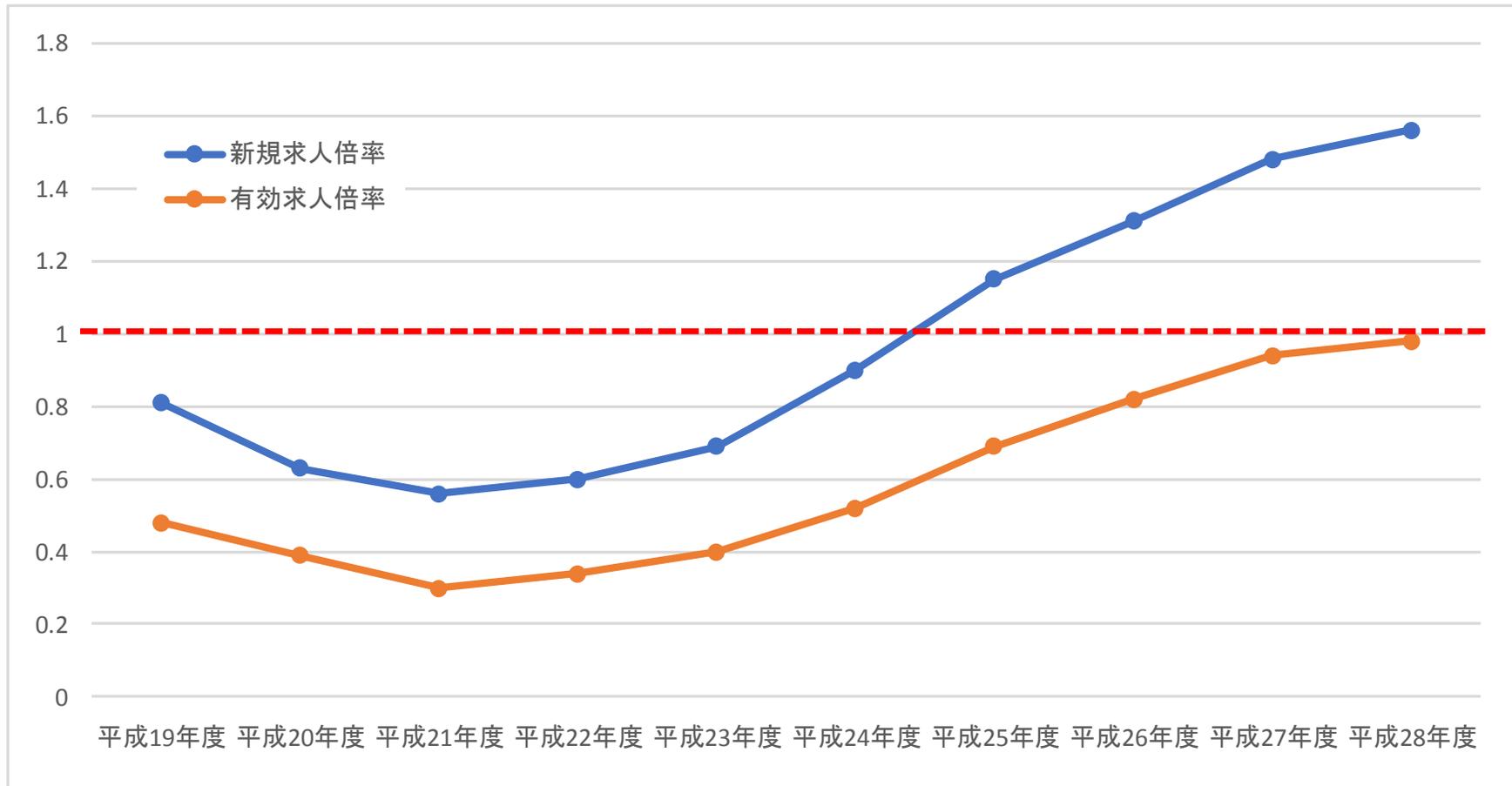
関連データ① 圏域外から稼ぐ力(圏域外収支)

- ・圏域外収支は、3,527億円のマイナス。
- ・運輸業、公共サービス、情報通信業などはプラスとなっているが、ほとんどの産業はマイナスとなっている。
- ・地域経済を牽引する主力産業群に位置づけられる「食料品」も2,668億円のマイナスとなっている。



関連データ② 圏域の有効求人倍率の状況

- ・平成22年度以降、有効求人倍率、新規求人倍率は回復傾向をたどり、新規求人倍率は平成25年度以降、1を上回っている。

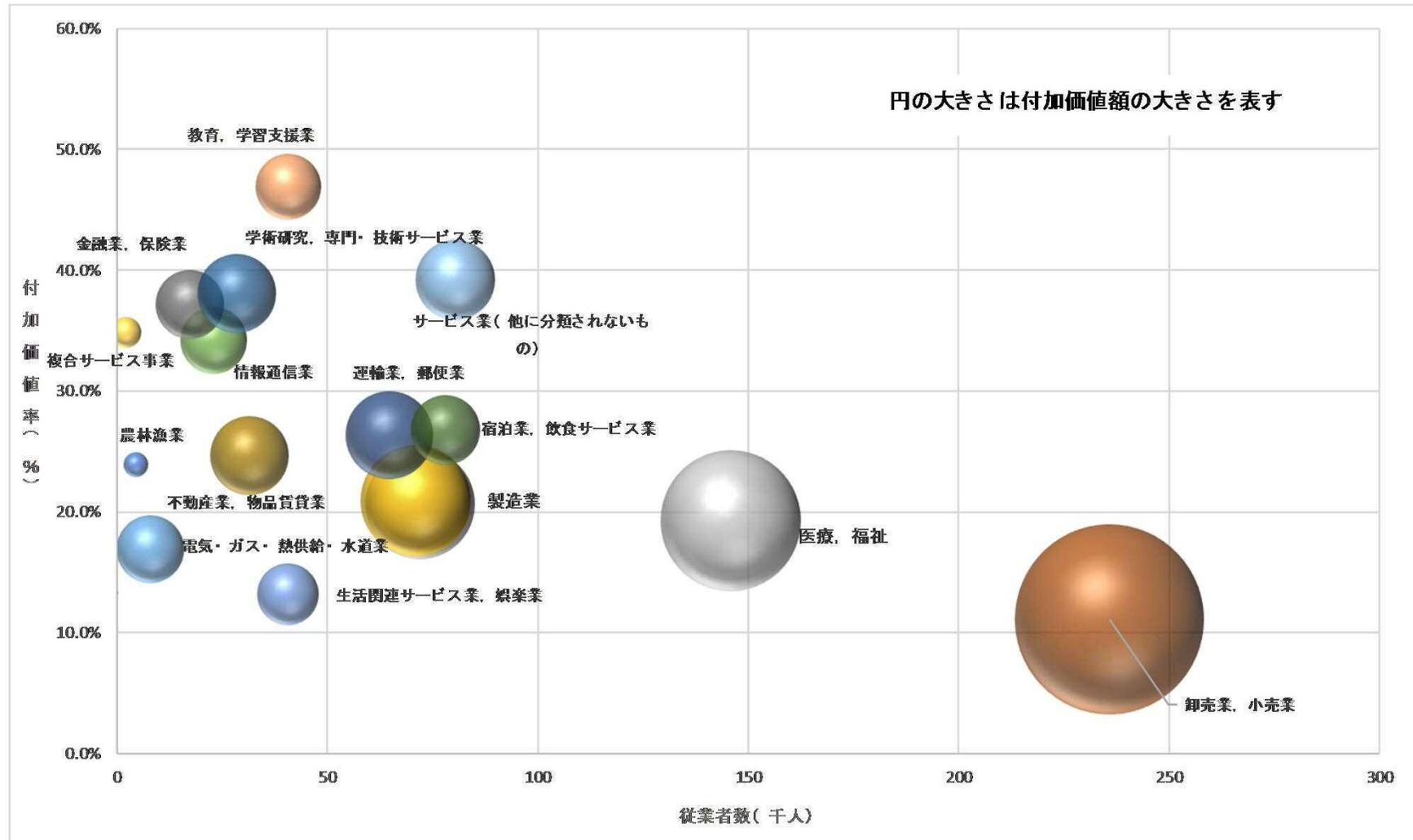


※下記札幌3所の管轄する区域で取扱った数値を取りまとめたもの

- ・ハローワーク札幌(札幌市のうち中央区・南区・西区・手稲区)
- ・ハローワーク札幌東(札幌市のうち白石区・豊平区・厚別区・清田区、北広島市、江別市、新篠津村)
- ・ハローワーク札幌北(札幌市のうち東区・北区、石狩市(浜益区を除く)、当別町)

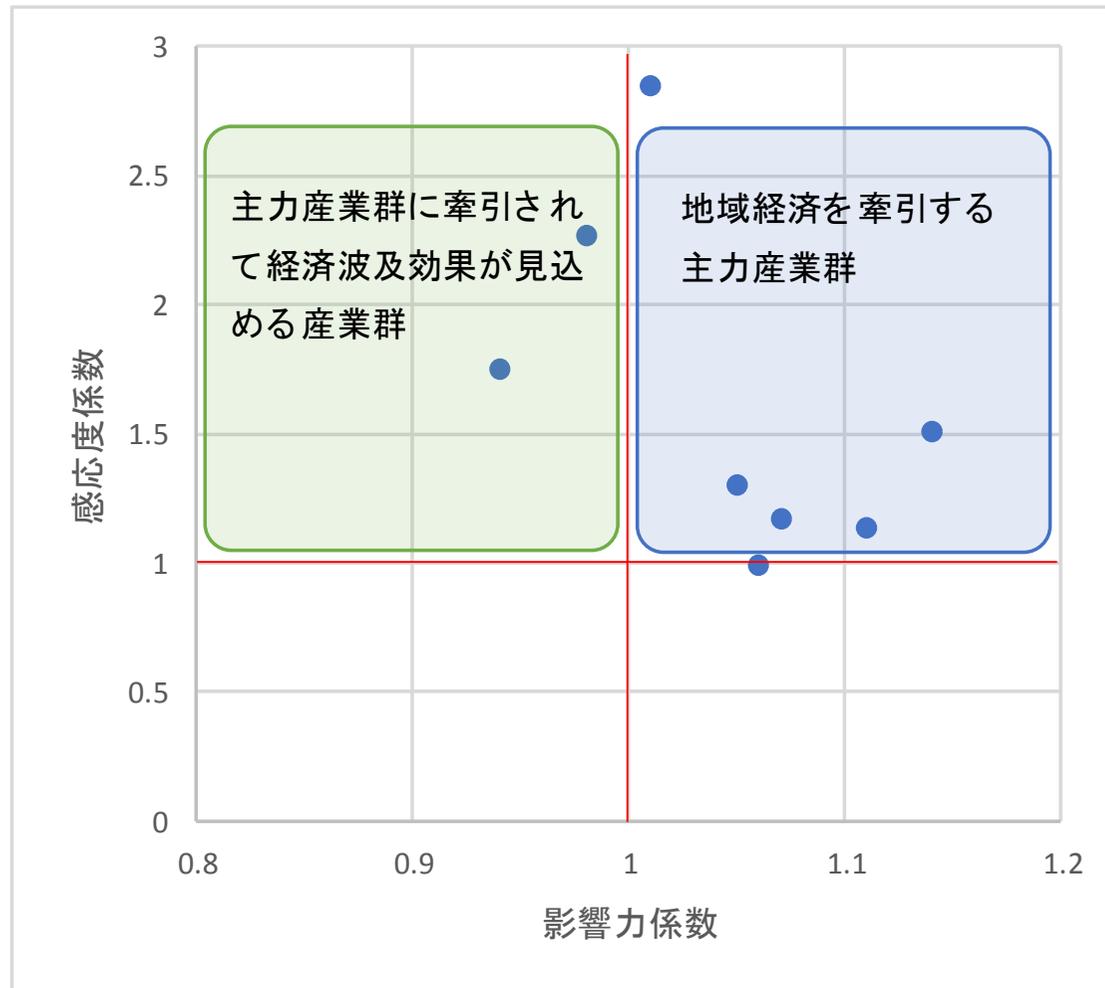
関連データ③ 圏域の産業の雇用吸引力・稼ぐ力

- ・従業者数が多く、付加価値額が大きいのは「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「製造業」。
- ・付加価値率は、「教育、学習支援業」、「サービス業(他に分類されないもの)」が高い。



関連データ④ 圏域の経済を牽引する産業・経済波及が見込まれる産業

- ・圏域内の多くの市町村において、「地域経済を牽引する主力産業群」には、「食料品製造業」や「農業」が位置づけられる。いずれの産業とも、町村は市に比べて、影響力係数や感応度係数が高い傾向にある。
- ・札幌市では「情報通信業」など、「地域経済を牽引する主力産業群」は市町村によって異なる。



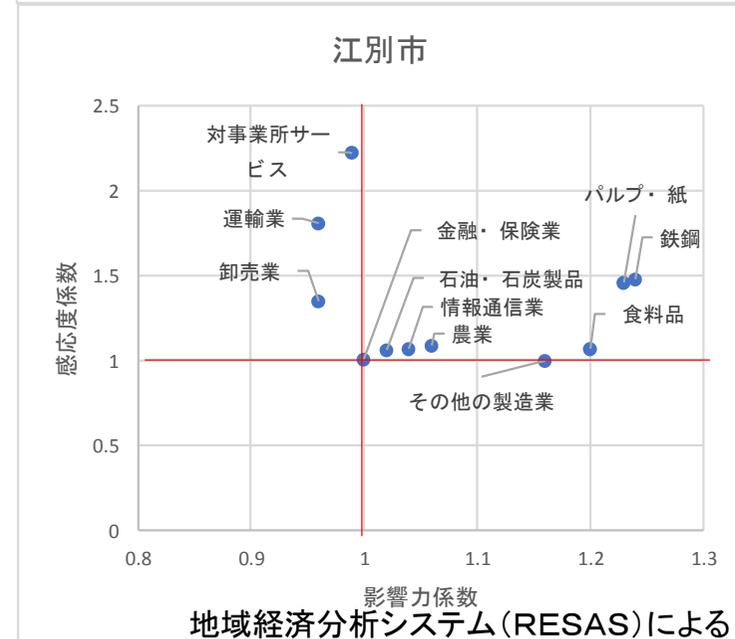
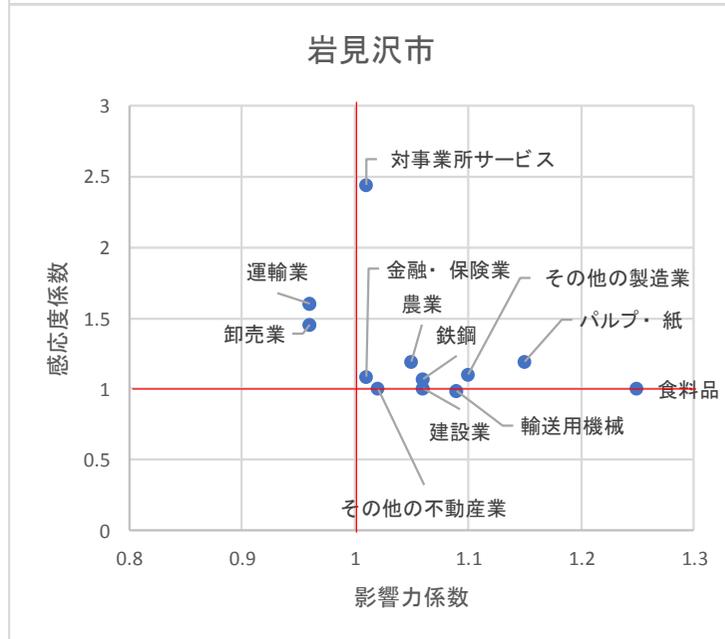
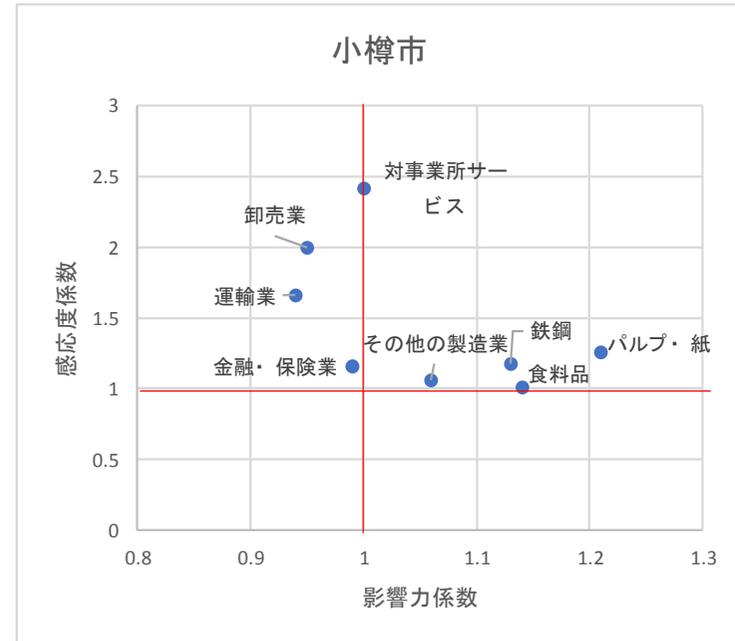
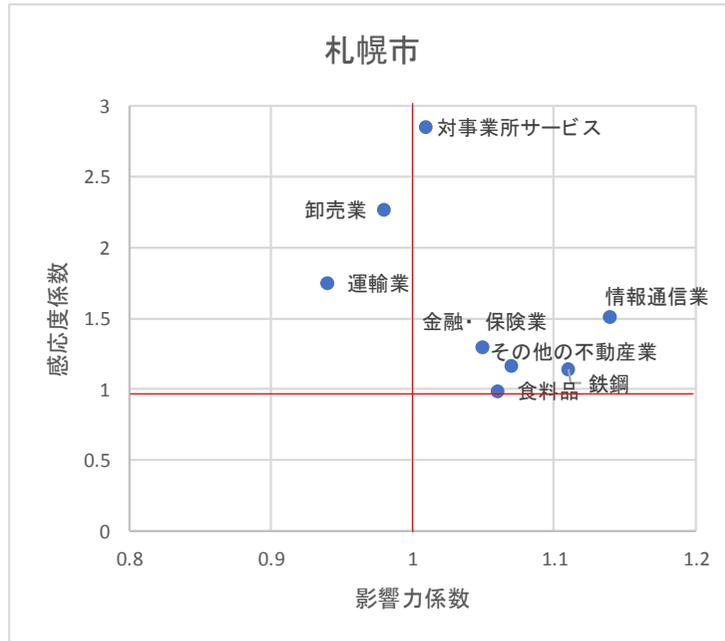
【影響力係数】

1.0を超えて大きいほど、当該産業に対する新たな需要が、全産業(調達先)に与える影響が大きい。

【感応度係数】

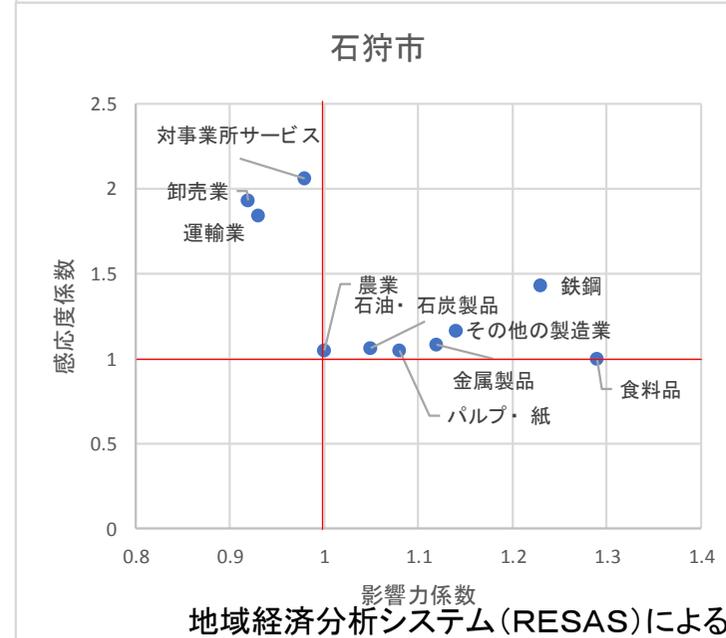
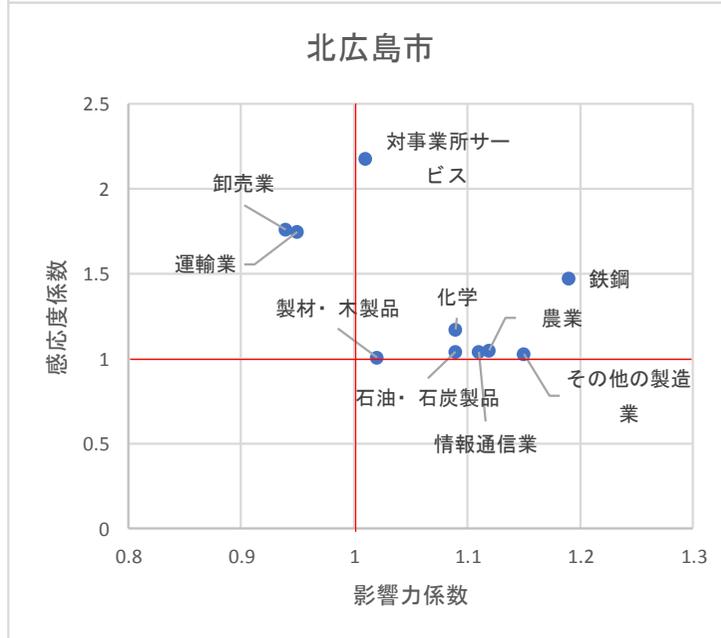
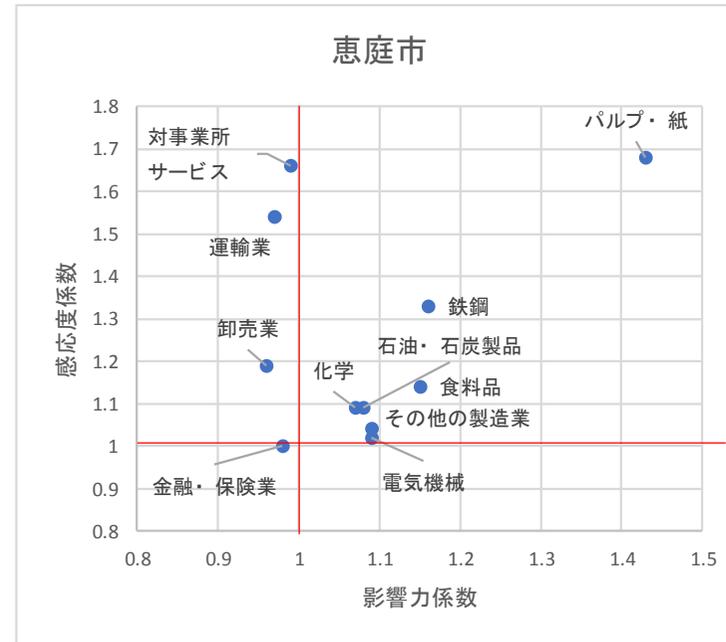
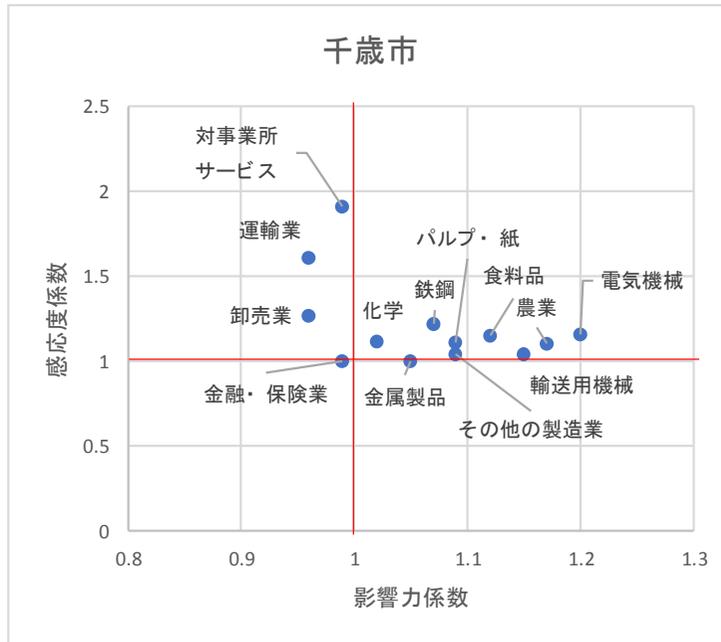
感応度係数が1.0を超えて大きいほど、全産業に対する新たな需要による当該産業が受ける影響が大きい。

関連データ④-1 圏域の経済を牽引する産業・経済波及が見込まれる産業

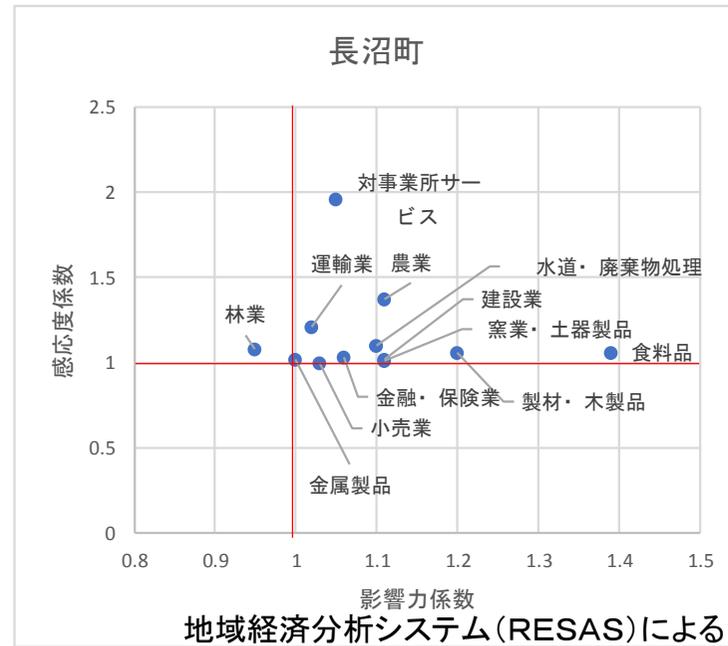
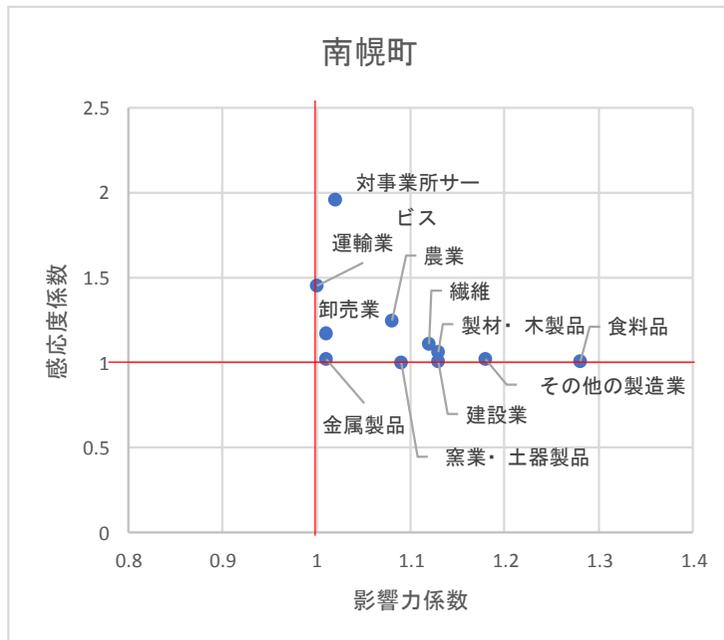
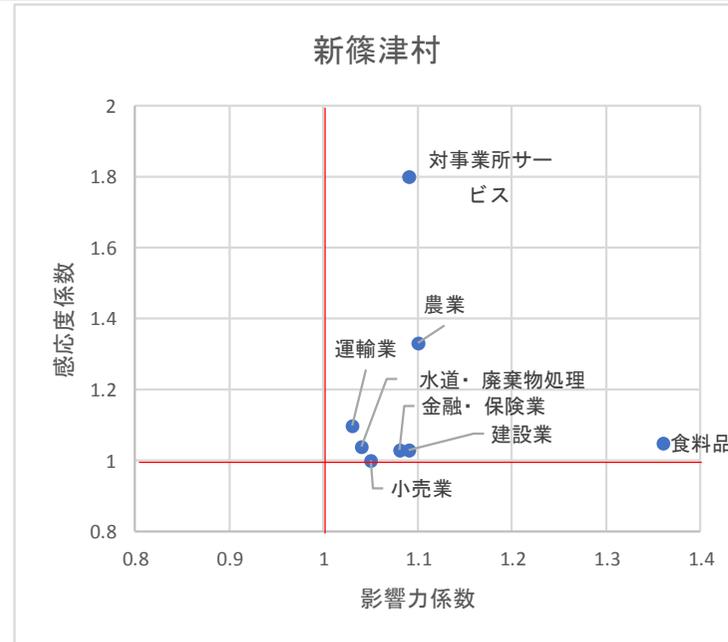
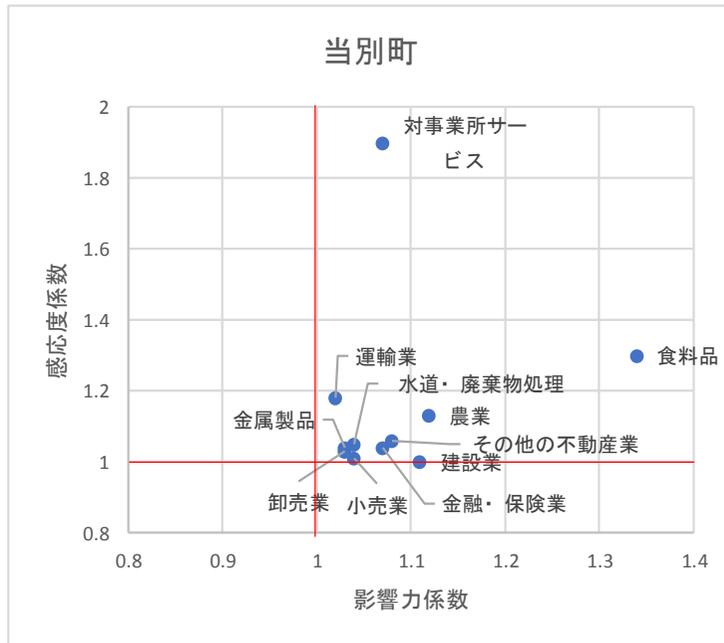


地域経済分析システム (RESAS) による

関連データ④-2 圏域の経済を牽引する産業・経済波及が見込まれる産業

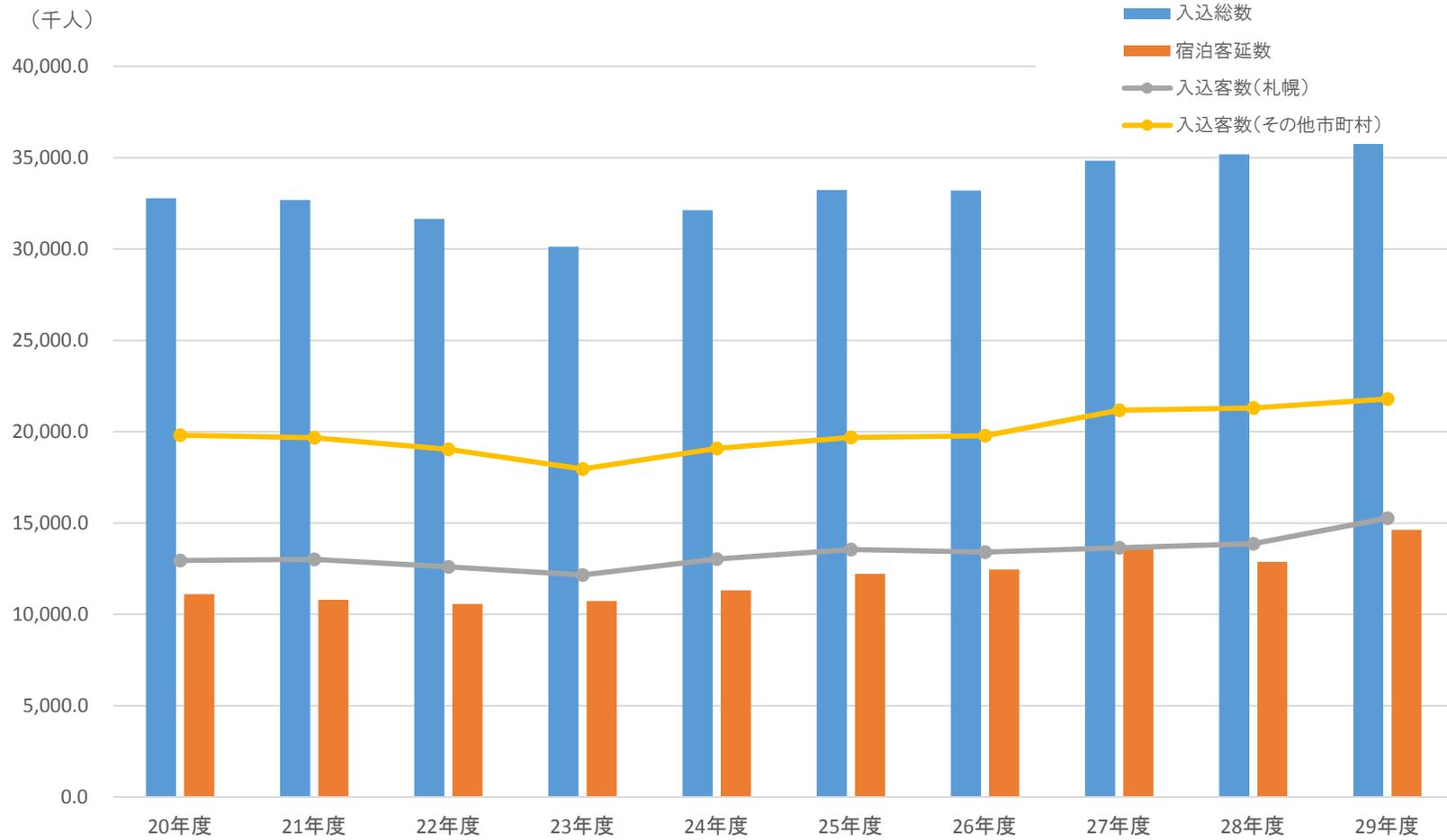


関連データ④-3 圏域の経済を牽引する産業・経済波及が見込まれる産業



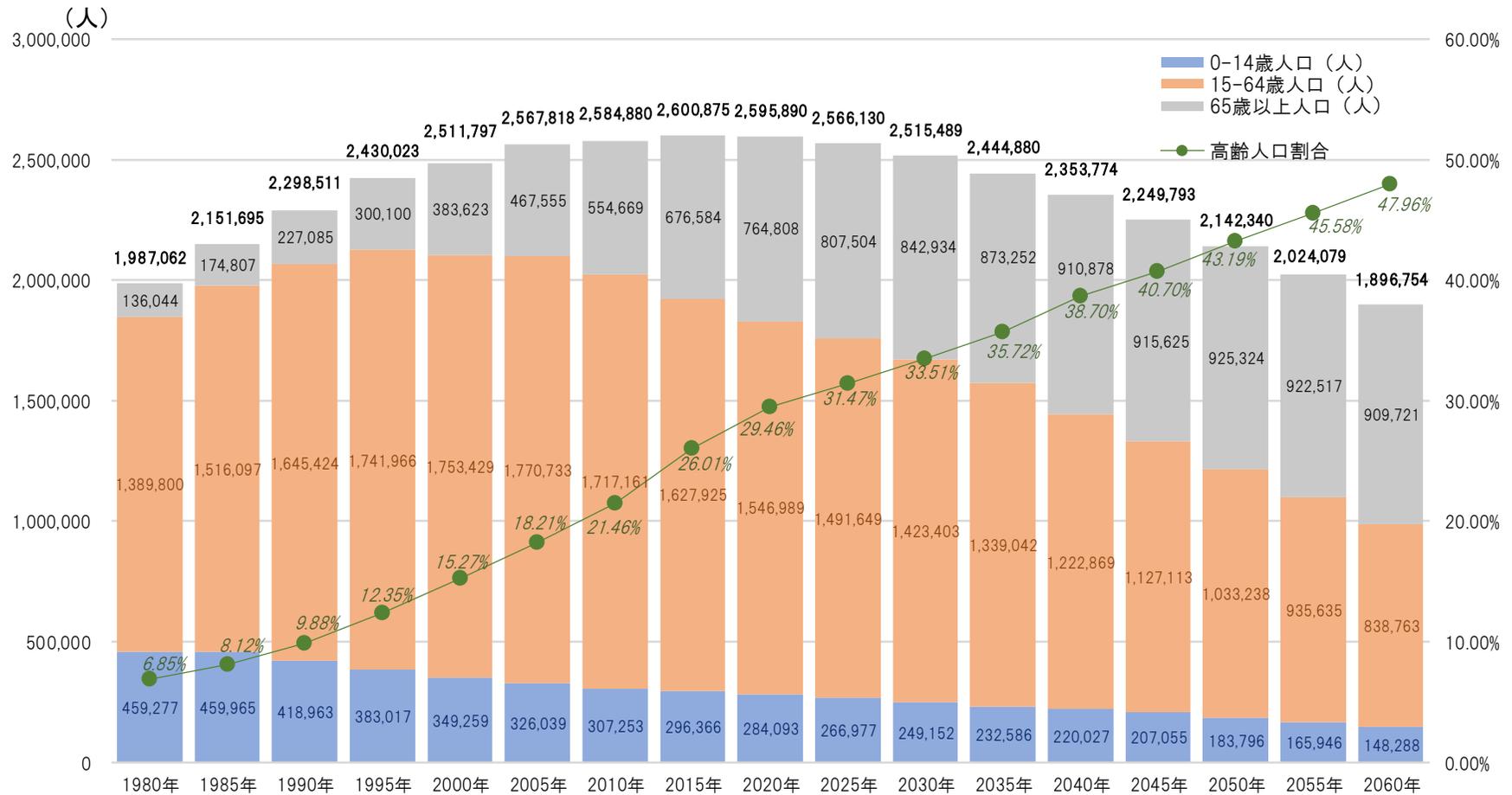
関連データ⑤ 観光入込客数

・平成24年度以降、観光入込客数、宿泊客延数ともに増加傾向となっている。



関連データ⑥ 圏域における今後の人口動態

- ・圏域人口は2015年の約260万人をピークに減少に転じ、2040年に約235万人、2060年には約190万人に。
- ・65歳以上人口の割合は2020年には3割、2045年には4割を超え、2060年には約5割に。



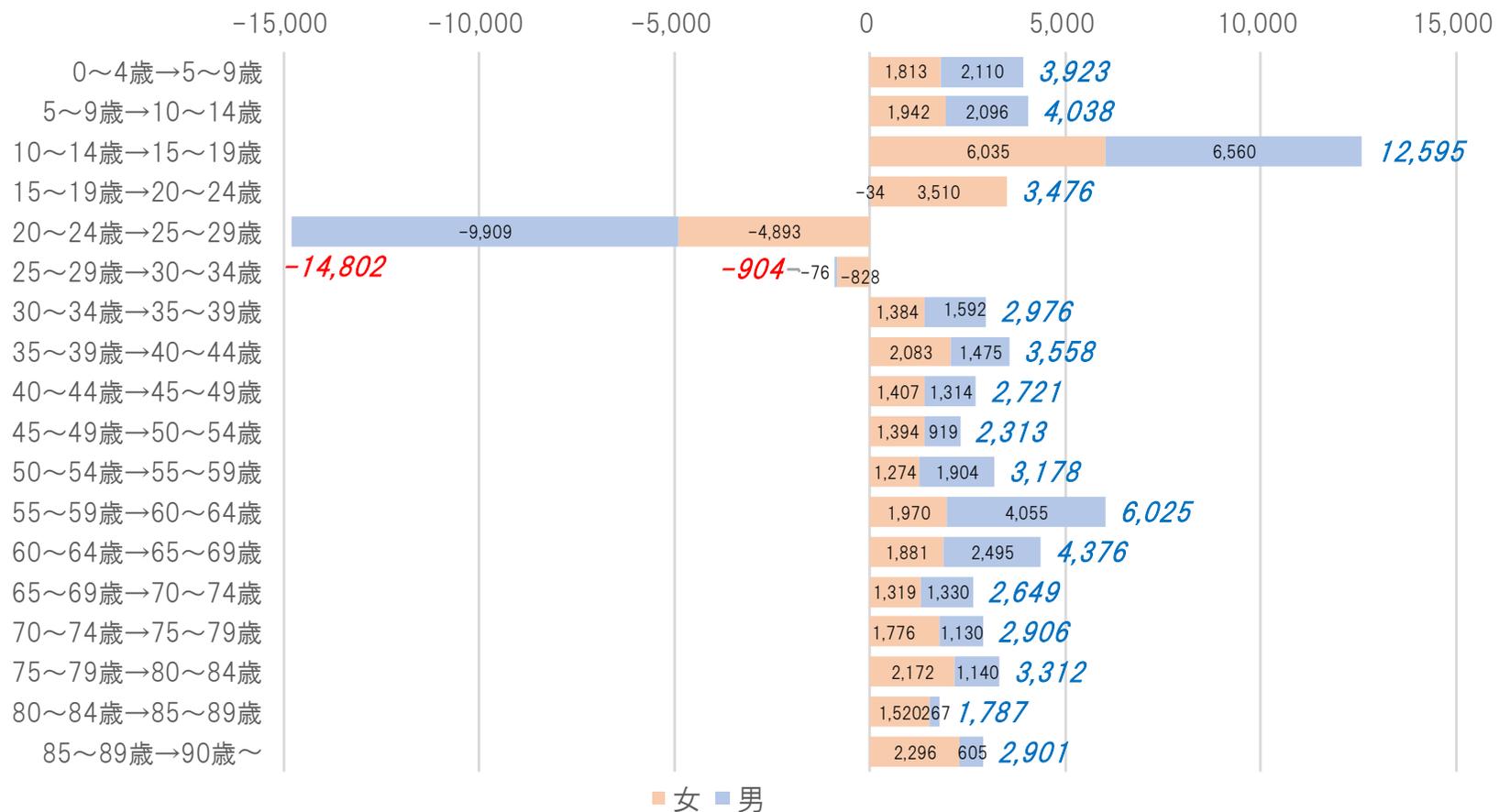
(推計値)

国勢調査(総務省)、日本の地域別将来人口(社人研)等に基づく

関連データ⑦ 圏域の人口移動の状況(年齢別)

- ・2010年に20～24歳だった層の人口が、2015年に約1.5万人減少している。
- ・特に男性の減少が大きい。

圏域の年齢（5歳階級）別人口移動の状況（2010→2015年）



関連データ⑧ 付加価値額、従業者数、労働生産性の全国比較

- ・付加価値額や従業者数の特化係数は、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「医療・福祉」、「卸売業、小売業」等が高い。
- ・労働生産性(全国=1)は、「複合サービス業」、「医療・福祉」が高くなっているが、ほとんどの産業が全国を下回っている(例:食料品製造業の労働生産性 全国 837万円 圏域 645万円)。

